


国際大会参加報告書

2017年12月3日

公益社団法人 日本ボディビル・フィットネス連盟
 会長 藤原 達也 様

報告者  涌島 剛智

大会名	2017年度第71回男子世界選手権大会 第12回男子世界クラシック選手権大会				
開催期間	2017年11月2日 ~ 2017年11月5日				
開催場所	国名:スペイン		都市名: ベニドールム市		
参加国数	55 カ国		参加選手数	314 名	
役員	役員名	役員・他			
	団長	藤原 達也	JBBF 会長		
	監督	涌島 剛智	北海道連盟 理事長		
	コーチ	木下 美弥子	福岡県連盟 理事, JBBF 集計委員		
通訳	木下 美弥子				
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備考
	木村 征一郎	大阪	男子本格的 W65kg以下	7	
	浅野 常久	愛知	" "	8	
	佐藤 貴規	東京	" 70kg以下	7	
	田代 誠	"	" "	11	
	川原 翔太郎	"	" 75kg以下	10	
	鈴木 雅	"	" 80kg以下	4	
	渡部 正兵	"	男子クラシック 168cm以下	4	
	涌島 剛智	"	男子クラシック 170cm以下	4	
	湯浅 幸大	"	" "	5	
	田村 貴文	"	" "	7	
	佐藤 正信	大阪	" 173cm以下	2	
	奥村 隆一郎	愛知	" 176cm以下	4	
小泉 豪志	神奈川	" 179cm以下	9		
レポート	別紙(表)参照				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。
 ※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。

監督レポート

11月2日～5日までスペイン・ベニドルム市で世界アマチュアボディビル選手権、世界アマチュアクラシックボディビル選手権、世界アマチュアメンズフィジーク選手権大会が開催された。今年で3年連続、同じ会場での開催だ。

今年からメンズフィジークも加わり、参加国 55 カ国、参加選手 314 名と、最大級の世界大会となった。

11月1日（水）

J B B F 藤原会長含め役員 3 名、選手 13 名、報道 1 名のチーム J A P A N の一行を乗せた K L M オランダ航空機が成田国際空港を離陸しアムステルダム経由でスペイン・アリカンテ国際空港に 15 時間掛かって到着した。

一行を乗せたバスは空港を出発してから 1 時間程で目的地ベニドルム市の宿泊ホテルに到着。長時間のフライトと時差で心身共に疲弊した選手団は部屋割りした各部屋に分かれ就寝する。

11月2日（木）

選手達は東の間の休日となり各自自由時間となる。藤原団長・木下コーチ・報道の森永さんと私の 4 名は午前中、ホテル DeloixAquaCenter にて I F B B 大会登録の受付を済ませる。

午後からは役員も自由時間となり、私はベニドルム市内を散策する。ビーチから眺める地中海に感動しつつも明後日から始まる大会への思いが強くなる。

11月3日（金）

朝食を早く済ませ。8時半から始まるIFBB総会に藤原団長はじめ役員3名で出席する。大会会場でもあるベニドルムパレスは宿泊ホテルからほど近い場所で場内はそれほど広くないステージとボックス席がたくさん並び、キャバレーの様だ。

我々が会場入りしても準備中で時間通り始まる様子はなく、結局始まったのが一時間後でIFBB会長のサントンファ氏の司会進行により七時間にも及ぶ総会は終了した。IFBBも色々な場面で問題に直面しているように感じた。

午後4時からホテル DeloixAquaCenter にて選手登録、検量、計測が行われた。その後7時からジャッジミーティングが始まり明日からの審査についての注意事項がパウエル委員長より述べられ、特にドーピングに関する説明には語気を強め違反者には厳しく対処するとのことでミーティングは終了した。

11月4日（土）

本日から2日間にわたりボディビル競技とメンズフィジーク競技が始まる。今日一日で日本チームのボディビル選手は全員出場する。昨年度80kg級で優勝した鈴木雅選手の連覇は成るか？田代、須山選手は昨年を上回ることができるのか？今回は否応なしに期待が高まる。

さて、トップバッターはメンズフィジーク168cm以下級に出場する渡部工兵選手。日本クラシック選手権で初めて渡部選手を拝見したがバランス良く細部にわたって筋肉がついており、シルエットもいい。結果は世界大会初出場ながら4位入賞と健闘をみせた。

ボディビル65kg級にはベテラン浅野喜久男選手と今年度ジャパンオープン優勝、日本選手権7位の木村征一郎選手が出場。日本では常に上位入賞している浅野選手と全身にわたり密度の高い筋肉をまとっている木村選手だったが、セカンドコールで呼ばれてしまった。決勝進出は厳しいか？やはり結果はファイナルに残れず木村選手は7位、浅野選手は8位だった。

70kg級には昨年4位の田代誠選手と佐藤貴規選手が出場。世界選手権初出場の佐藤選手は気迫あるポージングインパクトを与えてようだ。一方、昨年4位の田代選手は日本選手権と同じコンディションで隙のないパーフェクトボディではあったが、韓国、中東の選手のインパクトが強くて目立たない。セカンド

コールに佐藤選手。サードコールに田代選手が呼ばれた。

結果は佐藤選手 7 位、田代選手は昨年より順位を下げて 11 位となった。

75 kg級は須山翔太郎選手が昨年 3 位からどこまで順位を上げるかワクワクする。参加人数 21 名は全カテゴリーの中で最も多い。昨年と同じ 3 位でも凄いことではないか。セミファイナルに残る審査が始まった。もちろん 16 名には残った。須山選手はいつもと変わらない。しかし他国の選手も良い。特に韓国、中東の選手の迫力といったら非の打ちどころがない。須山選手はファーストコールに呼ばれずセカンドコールで呼ばれた。やはり順位が振るわず 10 位に終わってしまった。

ここまでクラシックの渡部選手を除いて誰も決勝進出をしていない。淋しい限りだが最後の取り、鈴木雅選手に頑張ってもらうしかない。

鈴木選手がステージに出てきた。日本選手権と同じように見えたが何か元気がない。押し迫る感じが弱い。逆に隣の韓国のキム選手（昨年 2 位）の胸筋の厚み、大腿筋のデカさとカット、上腕も太い。シルエットはカッコいいとは思わないがそれを打ち消す程の迫力を醸し出している。キム選手に負けるかもと思ったのは私だけではないだろう。ファイナルへの比較審査が始まる。鈴木選手も無難に残る。もちろん韓国の二人の選手も入っている。決勝フリーポーズが始まり、最初に鈴木選手の出番。鈴木選手はフリーポーズに定評があり、誰もが認めるところだ。フリーポーズ如何では順位を上げそう。鈴木選手がステージ中央でポーズをとって BGM を待っている。ところがここで思わぬハプニングが起きた。BGM がスタートしたところで鈴木選手が違うと手でスタッフにジェスチャーを送っている。どうやら CD の BGM が途中からスタートしているらしい。日本選手権の時と同じ CD で途中から音楽が変わるようになっており、その変わるどころから BGM が流れる。何度やっても同じところからかかるのでそのまま十数秒フリーポーズをとっただけで終わってしまった。さぞかし悔しい気持ちだろう。日本選手団も同じ気持ちだ。もう一度やらせてほしいと抗議したが受け入れてもらえず、何ともやりきれない虚無感だけが残った。結局、優勝は韓国のキム選手・2 位イランの選手・3 位に韓国のパク選手が入り、昨年、優勝の鈴木選手は 4 位に甘んじた。

11 月 5 日（日）

昨日のチーム JAPAN ボディビルダーの結果に悔しがっていた藤原会長。もちろん、選手は十二分に調整して当日を迎え、努力した結果の順位なので仕

方ない。今日はメンズフィジークの面々に結果を残してほしい思いだ。心なしか、皆、昨日の雪辱に燃え、気持ちが入っている様にも見える。

170 cm以下級には田村宜丈、湯浅幸大、寺島遼の3選手が出場する。日本のトップクラスが出場するので期待大だ。田村、湯浅選手は国際大会には慣れているようで堂々としている。ファーストコールに湯浅、寺島選手が呼ばれ、セカンドコールには田村選手が呼ばれた。結果は寺島選手が4位。湯浅選手が5位となる。田村選手は残念ながら7位でファイナルに残れず。

173 cm以下級は日本の絶対的王者、佐藤正悟選手が出場。佐藤選手も国際大会には何度も出ており、余裕すら感じられる。佐藤選手の最大のライバル、中国のチェン選手も出ており、この二人が優勝を争うことになりそうだ。チェン選手は顔が小さく、張り出した肩が特徴だ。佐藤選手も負けていない。案の定、セミファイナルでは佐藤選手が勝っていた。決勝では惜しくも負けしたが、ここ、3年間で最も肉薄していた。過去二度、チェン選手に負けている佐藤選手は今回、集大成で挑んだという。悔し涙から心情が伝わってくる。この悔し涙は来年、嬉し涙に変わるはずだ。来年に期待したい。

176 cm級には愛知から参加のムードメーカー甲村隆一郎選手が出場。初めての国際大会だが、物怖じせず自身に満ち溢れている。堂々の4位入賞だ。

メンズフィジーク最後は179 cm級出場の小泉憲治選手。高身長にバランスよく筋肉がついて、ルックスもいい。しかし、ファーストコールには呼ばれず、セカンドコールで呼ばれてしまい残念ながら9位で終わってしまった。

夜にはお疲れさん会と反省会を兼ねて、ベニドルム市街のスペイン料理レストランで食事会を行う。鈴木選手は残念ながら体調不良で欠席。

11月6日（月）

今日はスペイン最後の日だ。日本選手団はこの1週間にいろんな想いをもちながら、帰国の途に就く。

午後1時、ホテルに来た迎いのバスでアリカンテ国際空港に向かう。選手団は搭乗手続きを無事済ませ、アムステルダム行きの飛行機でオランダを経由した後、フランス、パリへ。パリから成田まで往路と同じ12時間時間のフライトだ。

羽田国際空港で解散式を行い、それぞれ帰路についた。

大会を振り返って

今回、初めて日本連盟から監督という職務を任せられ、自分が真っ当に責務を果たすことが出来るか不安だったが、同行した藤原会長はじめ木下コーチにい

ろいろと助言をしてもらい助けていただいた。

初めて、国際大会の審査も行い、緊張の中にも貴重な体験をさせてもらった。また、日本のトップクラスの選手とも一週間、同行させていただいた経験は、私の一生の宝でもあり誇りだ。

大会を振り返って、各国の選手層のレベルの高さに驚いた。

昨年の活躍した選手達が思うような結果を残せなかったことに悔しさ反面、世界の壁の厚さを目の当たりにした。

今回、感じたことは筋肉量とバランスはもちろんだが、選手から発するインパクトが大事だと思った。短い審査時間の中ではインパクトが弱いと印象が薄くなる。

終わってみれば韓国勢の活躍が目立った大会だった。隣国の韓国選手の活躍に日本も負けてはられない。

この度、監督に任命していただいた日本連盟に対して感謝を申し上げますと共に監督として不行き届きな点があったことにお詫び申し上げます。

2017年度世界ボディビル選手権大会 監督 涌島剛智三